2026 年 2 月 23 日

2025 年度「若者 × ツナグバ」活動報告書

団体名：上島未来共創隊

活動名：大崎上島町リノベプロジェクト

★団体紹介

私たちは、大崎上島町にある旧警察官舎の空き家を拠点に活動しています。昨年度、建物の改修が一区切りし、今年度は「みんなの“やってみたい”を叶える場にすること」を目標に、月に 1〜2 回のペースでワークショップを実施しました。



結成時期：

2022 年〜 2024 年で研究室プロジェクトとして空き家であった旧警察官舎の改修を実施。その後学生有志が集まり、2025 年 3 月に新チームを結成。

活動方針：

① 木江旧警察官舎を町民の皆さまに知っていただき、愛着を持ってもらう。
② 試験的運用を重ね、木江旧警察官舎の今後の適切な運用方法を検討する。
③ 試験的運用を通じて、ハード面の不足部分を抽出する。

構成メンバー：


西村紀彦


濵野喜史


土居秋穂

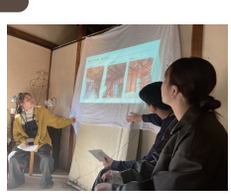

田守希花


仁志桜子


川久保尚仁

★活動内容

4月



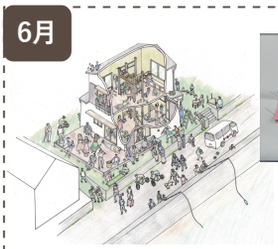
地域の皆様に我々の活動を知ってもらうための説明会

5月



海でつながるアートウォークイベント 2025- 箸づくり -

6月





木江旧警察官舎の使い方を考えるワークショップ

皆の“やってみたい”を抽出→実現していく！

7月

キャンドルづくり




七夕祭

8月

フローリング工事




映画鑑賞会

9月

外壁塗装工事




・外壁塗装ワークショップ
・餅つき

10月

内壁塗装工事




・内壁塗装ワークショップ
・スイーツ販売

11月

若ツナフェスタ



秋の大感謝祭 2025



・お菓子まき
・建築作品展覧会
・記念映像上映会



1月

多肉植物寄植えワークショップ



餅つき第二弾



2月

バームクーヘンづくり



フード販売



12月

若手アーティストコラボ展



フード販売



その他

定期的な草刈りで場を整える



広島市立大学ボランティアサークル「Re.lic」と協働



広報活動

チラシ



Instagram



hu_archplan_project

★実施に伴う効果



アンケートにご協力ください

■あなた自身のことについてお伺いいたします。
※回答したくない場合、無回答で構いません。
個人情報の取り扱いは本活動の目的のみに使用し適切に管理いたします。

名前		性別	男性・女性・その他
年齢	10 歳未満・10 代・20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上		
住まい	木江・明石・大串・沖浦・中野・原田・東野・その他（　　）		
職業			

■今日のイベントはいかがでしたか？
良かった・まあまあ良かった・普通・少し悪かった・悪かった

理由

■木江のまちにどんな場所があったら嬉しいと感じますか？

■木江旧警察官舎でしてみたい事はありますか？

■木江旧警察官舎を見てみて、改善点などはありましたか？

■今後の活用に向けてご意見・感想などあればお聞いいたします！

今後このようなイベントがあれば協力してくれますか？（　はい　・　いいえ　）

本日はイベントにご参加いただきありがとうございました！

アンケート

本活動を通じて、これまで活用が十分でなかった旧警察官舎に人が集まる機会を創出することができました。イベントを継続する中で、地域住民や学生、創作活動に関心を持つ方など多様な人々が訪れ、新たな交流が生まれています。特に、応援してくださる地域の方やリピーターの存在も徐々に見られるようになり、本拠点が地域に開かれた場として認識され始めている手応えを感じています。





また、アンケート調査により、旧警察官舎に対する地域の期待や「やってみたいこと」といった具体的な要望を把握することができました。これらの結果は、今後の運用方針を検討する上で重要な基礎資料となっています。
さらに、企画立案から広報、運営までを学生主体で担ったことで、実践的なプロジェクト推進力や、地域の声を踏まえて活動を調整していく力を養うことができました。これらの経験は、地域資源を活かした持続的な場づくりに向けた基盤形成につながっていると考えています。

★今後の課題



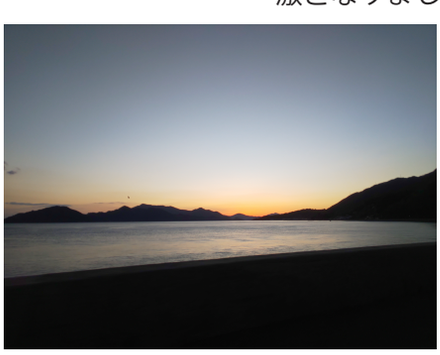


本活動で特に苦労した点は、拠点へのアクセスの不自由さです。木江旧警察官舎は車での来訪が前提となる立地にあり、バスも予約制であることから、気軽に立ち寄りにくい状況がありました。特に、大崎上島町には寮を有する中学・高校（叡智学園、海星高校等）があり中高生人口は一定数存在するものの、移動手段が限られているため、関心を持っても来訪が難しいという課題がありました。
こうした状況に対し、少し距離があっても来たいと思ってもらえるような企画内容の工夫、広報の改善等を重ねてきました。その結果、徐々に来訪者が増え、拠点への関心の広がりが見られ始めています。

今後も、地域ニーズを踏まえたプログラムの充実や情報発信の工夫を行いながら、本拠点のより良い活用のあり方について引き続き検討していきたいと考えています。

★若者 × ツナグバへの提言

若者 × ツナグバの取り組みは、学生が地域と実践的に関わる貴重な機会となっていると感じています。特に、若ツナフェスタ等を通じて他団体の活動を知り、運営上の工夫や地域との関わり方について学ぶ機会を得られたことは、本活動を進める上でも大きな刺激となりました。







今後さらに取り組みを発展させていくためには、こうした団体間の交流機会が継続的に設けられるとともに、日常的に相談や情報共有ができる仕組みがあると、各団体が抱える課題への対応力がより高まると考えます。
また、活動事例や運営ノウハウを横断的に共有できる場が充実することで、各地域での実践の質の向上や、若者主体の地域活動のさらなる広がりにつながることを期待しています。